

私の戦争体験

山口 平治（昭和2年生まれ）

昭和19年2月4日、親類、町内会、在郷軍人会、国防婦人会、青年会等多くの人達の歓呼の声に送られて、懐かしい故郷を後に長岡に向かう。

長岡の坂之上国民学校(現小学校)の体育館には戦死をされた連合艦隊司令長官山本五十六元帥の写真が掲げられていた。県下各地より出征する若者たちが山本元帥の出身校であるこの体育館に集合し、県主催の壮行会が盛大に開催された。「山本元帥に続け」を合言葉に盡忠報国必勝を誓い、夜行列車で横須賀に向かう。

翌日5日、久里浜の海軍対潜学校に入校、校門を入ったときは身の引き締まる思いであった。

数日後の夜、班員一同の整列があり、班長の手にはバツタ(号数により太さが違う)が握られていた。「これは軍人精神注入棒である。今から貴様達に気合を入れる」と、1人3発ずつ尻を殴られ前によるめく。このバツタ制裁は常に行われ、尻の青い痣は消えることはなかった。手旗、水泳、カッタ(ボート)、銃剣術等の訓練が続く。新兵教育の最後は辻堂演習である。早朝、久里浜を出発、鎌倉、江ノ島を経て辻堂まで行軍する。ここは広大な砂丘地で到着後射撃演習が行われた。この演習で小銃の葉莢1個を他の班員が紛失した。隊長は、「天皇陛下よりお預かりしたものを紛失するとは何事だ。探せ。」と命令する。全員が1列横隊になり砂を掘り返し探すも、日没になっても発見できず空腹と疲労で体力は限界であった。軍隊とは絶対服従であり、ただただ耐えるのみであると知る。

4月より水測術普通科練習生として水中聴音機と水中探信機の授業を受ける。朝から夜までの詰め込み教育である。海上の実習は東京湾の入り口の浦賀水道である。ここは船舶の航行が最も多い所である。航行する船のスクリュー音を聞いて船種、進行方向、距離の測定等の厳しい実習訓練が続いた。戦艦山城(30,600トン)での艦務実習が終わり、10月普通科を卒業する。

11月3日、呉にて駆逐艦楨(1,262トン)に乗艦する。11月末、マニラへの物資、人員の輸送作戦が展開された。無事任務を遂行し、空母隼鷹、戦艦榛名を護衛して佐世保に回航すべく、12月8日、東シナ海を北上中であった。当日は暴風雨で海上は大時化、最悪の天候であった。隼鷹の飛行甲板は波で洗われ、小さな楨は木の葉のように揺れた。9日深夜、私は当直のため4名の僚友と艦底にある水測室で水中聴音機を操作していた。午前2時頃艦首方向に魚雷音が入ってきた。直ちに艦橋へ「左前方魚雷音」と逐次音感を報告するも、ついに被弾。大爆音と強烈な衝撃で体は宙に舞い、床に強く叩きつけられた。ハッチからは滝のように海水が流れ込んでくる。たちまち膝まで浸水する。「船は沈んでいる」と思った。当直の僚友は冷静沈着であった。暗闇の中を全身ずぶ濡れになりながらタラップを上がり、上甲板に出る。艦は沈まず浮いていた。

艦橋から、機関室が無事だから航行できると言う。暗黒の海を2ノット(時速3.7キロメートル)の遅々とした速度で我慢の航海が続いた。夜が明けてから被害状況を見ると、艦橋から前部が吹き飛び無残な姿でただただ呆然とする。もう少し艦橋寄りに被弾していれば、艦は真っ2つ

になっていたと思う。「板子一枚地獄の底」から「九死に一生」を得たことを知る。日中は敵の攻撃もなく、夕方やっとの思いで長崎に入港する。航海中、母より贈られた千人針を腹に巻いていたが、これを取り外して、「生きていた」と母に感謝する。この千人針は私の宝として今も大切に保管している。

20年3月、修理が終わった艦は4月6日、沖縄へ出撃する戦艦大和(65,000トン)を護衛して山口県徳山湾を出港する。豊後水道にて大和で艦務実習中の少尉候補生が退艦を命ぜられ、楨外二艦に移乗する。出撃する大和を見送るも翌七日、大和外五隻が撃沈された。海軍のシンボル大和の勇姿は永久に見ることは無く、帝国海軍の終焉でもあった。

8月15日、天皇の終戦玉音放送を聞く。全身の力が抜けた思いであった。一方で、「バツタ」制裁から解放されたとの安心感もあった。

呉で武装解除された艦は引揚者の輸送に従事することになる。マニラ、基隆、花蓮港、上海からは旧陸軍の兵士たちの送還である。

満州(現中国)のコロ島からは一般の人達の引き揚げである。若い女の人達は頭を坊主刈にして男との区別が付かないほどである。港に着くまでは言葉に表せない程の苦勞があったと聞かされた。対馬や九州の山々が見えると皆さんは「日本だ」「祖国だ」と叫びながら涙を流されている。その姿に私達乗組員も涙する。

引揚者の祖国でのご活躍を祈りながら、私は21年8月、15回の輸送航海を終えて退艦し、帰郷する。

今年、私は80才を迎える。これも楨で若くして尊い命を散らした35名の加護によるものと思っている。戦後62年、あらためて戦死者のご冥福を祈るものである。